

## 政策目標2 良好な生活環境が保全されているまち

## 政策評価（環境基本計画の政策評価 p3、4参照）

## 【取組実績に関するコメント】

- ①ごみの不法投棄に関しては、北部小出地区が非常に多く、令和5年度から小出地区まちぢから協議会内に環境保全部会を発足させ、本格的に取り組んでいる。この部会からの呼びかけに対し、市の環境事業センターの協力のもと、監視カメラの設置や夜間パトロールを実施しているが、いまだに収束の兆しが見えない。不法投棄を撲滅しない限り、「町のきれいさ」には結びつかない。
- ②健全な水環境を維持するため、水循環・水環境に啓発がなされている。
- ③まちの美化を推進するため、美化クリーンキャンペーン、草の多く生える時期は暑い時期と重なるが、川の周囲の草取りやごみ拾いなど、定期的な新たな取り組みも必要。
- ④市民への騒音計及び振動計の貸出はさらなる周知が必要。
- ⑤工場への立ち入り調査や水質調査により、全項目において、近づいているとなっているので、引き続き維持、達成に近づけるようにするとよい。
- ⑥見学や啓発講座、チラシを配布し公共下水道への接続を促進させたこと、美化クリーンキャンペーン茅ヶ崎を実施したことは、良好な生活環境に向け市民の意識をも向上させたと思う。
- ⑦公害の未然防止に向けた立入調査や水質調査を着実に実施している点は評価できる。生活環境に対する市民の満足度も総じて高く、様々な啓発活動や市民との協働が功を奏しているものと考えられる。
- ⑧光化学オキシダント以外の環境基準を達成し、市民の環境に対する満足度が向上しているため、引き続き、環境基準の達成及び市民の環境に対する満足度向上に向けた取り組みを実施してほしい。

## 【総合評価に関するコメント】

- ①北部の市街化調整区域では、農業の担い手不足により耕作放棄地が増大し、資材置き場や廃車置き場が増加している。また、これらの場所は多くが高い塀で取り囲まれ、保安上の問題や交通事故を引き起こす危険性が高い。この問題を放置して、街並みの美しさが向上しているとは、とても言い難い。
- ②市庁舎が新しくなったこともあり、駅から北口、または南口のアートなど雰囲気が良くなり、まちがキレイになったと感じる。
- ③光化学オキシダント、河川の水質(BOD)については、改善が必要。
- ④「周辺の静かさ」や「まちのきれいさ」「まちなみの美しさ」の市民満足度を維持できるよう、引き続き取り組んでほしい。
- ⑤大気汚染や水質汚濁に係ることに関しては、茅ヶ崎だけでは解決しがたいこともあるので、周囲との連携も必要と思われる。光化学スモッグの発生要因となる揮発性有機化合物(VOC)の抑制、水質改善に向けた更なる取り組みも、環境基準の全面達成を目指してほしい。
- ⑥河川の水質汚濁や光化学オキシダントの状況の改善に向けては、「総合評価」に記載されているとおり、広域での連携が不可欠である。神奈川県や近隣市町村との連携のあり方を検討し、より効果的な対策が講じられるような体制を構築する必要がある。
- ⑦ペットの適正飼育に関する啓発を行っているが、改善状況などを示す何らかの指標があると良いのではないかな。

## 政策目標3 資源を大切に作る循環型のまち

## 政策評価（環境基本計画の政策評価 p5、6参照）

## 【取組実績に関するコメント】

- ①剪定枝をバイオマス発電に利用する仕組みは、非常に有益で、今後も進めていただきたい。
- ②循環型のまちを目指すため、協力企業と連携しての市民への草木灰の配布、とても良い取り組みと観じる。
- ③ごみ袋の有料化により、ごみ置き場の排出量が少なくなったと感じる。ごみ袋に企業広告を募集し、その広告料をごみ処理や関連施設の維持管理費にあてるなど工夫する。
- ④4R を推進するためのイベントやごみ減量化や資源化の周知等により、ごみの排出量が達成したこと、フードバンクやフードドライブの取り組みを行うことで、福祉へも貢献できることもよいと思う。
- ⑤ごみ有料化で、家庭用生ごみ処理機への市民の関心も高まったと思う。
- ⑥集積場所における不適正排出の啓発（シール貼り）、監視カメラの設置や昼夜のパトロールを実施し、不法投棄を監察は、人件費がかかることとは思いますが、やむを得ないと考えます。
- ⑦ごみ袋の有料化やフードドライブ・フードバンクの実施など、新しい、具体的な対策を継続的に取り入れている点は評価できる。
- ⑧有料化の導入にあたっては丁寧な説明を行い、その結果として増えている家庭用生ごみ処理機の購入希望に対する補助を実施している点が評価できる。
- ⑨ごみの分別、ごみの減量化及び資源化が進み、市民の満足度が向上しているなので、引き続き、ごみの分別、ごみの減量化及び資源化等に向けて取り組みを実施してほしい。

## 【総合評価に関するコメント】

- ①ごみ有料化は、完全に定着したが、戸別収集は慎重に判断していただきたい。ごみ集積場所への無責任なごみ放置は防止できるが、自治会の監視機能がなくなるため、個人からの環境事業センターへのクレームの増大と、自治会加入率の低下が予測される。
- ②学校給食の野菜くずや残飯などの処理がどのようになっているのか分からないが、乾燥処理できるものは堆肥化するなどのリサイクルに回したり、さらなる工夫が必要。
- ③フードバンク、フードドライブの実施、企業へも幅広く声かけを行っていく。
- ④分別収集を分かりやすくするための工夫、掲示物（自宅用）一枚で見やすいものをつくるなどしていく必要がある。（高齢者対策）
- ⑤生ごみを減らしていく工夫、循環していくシステム作りが必要。
- ⑥ごみ置き場を地域できれいに保つ工夫、自治会に入る人を増やし、地域活動を活発にする。
- ⑦ごみ袋の有料化により、ごみの減量が進んだことはよいが、最終処分率を更に削減していく必要があると思う。さらなるごみの分別、資源となるもののリサイクル、リサイクルされたものの活用が市民に広く周知されることが必要と思われる。
- ⑧最終処分率は減少傾向にあるが、中間目標や期末目標を達成するためには、一層の取り組みが求められる。
- ⑨市民のリサイクル活動に対する満足度の向上のためには、自身が何らかの形で取り組んでいるという実感を得ることも重要であると考えられる。日々の分別に加え、フードドライブの拡大など市民が取り組める活動を増やし、周知していくとよいのではないかと。

## 政策目標5 環境に配慮した行動を実践するまち

## 政策評価（環境基本計画の政策評価 p9、10参照）

## 【取組実績に関するコメント】

- ①学校における環境教育は、時間がかかるが、じわじわと効果が期待できる。
- ②学校教育に関する分かりやすい、年齢にあったコンテンツの作成。
- ③地域や海岸での美化キャンペーン時、企業や施設など地域に関わる多くの人たちにも声をかけ参加を促していく。
- ④体験型の環境フェアの取り組みは引き続き、展示物などを工夫しながら行っていく。
- ⑤学校における資料や出前授業学校における資料、出前授業、地域における環境学習会の実施を行うことで、市民に広く周知されている。
- ⑥環境に関する情報の発信に関しては、SNS やホームページなどにおいて広く発信しているが、ちがさきエコネット等、会員数を増やすことも必要だと思う。
- ⑦市民活動団体による自然環境保全活動などの情報を発信している点は評価できる。
- ⑧広範な広報・啓発活動を行なっている点は評価できるが、それぞれの効果や内容について、継続的に検証して改善していくことが求められる。
- ⑨市民の不満度は減少傾向にあり、環境に配慮した様々な取り組みを実践されている方の割合も増加している状況にはあるので、引き続き、目標達成を目指して市内の環境教育・学習機会の充実及び活動推進の取り組みを実施してほしい。

## 【総合評価に関するコメント】

- ①今後も地道な広報活動が必要と感じます。
- ②環境学習や環境活動の機会をつくるには、広報紙のみならず、各自治会へのちらしポスター配布、ネットやホームページの活用を積極的に行っていく。
- ③環境に関する取り組みを、新たな市民、事業者とも行っていけるよう、活動していくことが大切と思う。
- ④環境学習・環境活動の機会が市民に届いていない。参加のしやすさの案を市民から募ったらどうか？
- ⑤市民や事業者の「省エネルギーなど地球温暖化対策への取り組み」を実践している割合についても、取り組みやすさを検討していく必要があると思う。
- ⑥「不満」を抱いている人々が、どのような層の人々であるのかを調査データから分析することが必要である。
- ⑦「環境学習の機会」「環境活動の機会」の創出にあたり、世代やライフスタイルを考慮することは重要であるので、より具体的な内容を伴った計画を策定する必要がある。とくに、仕事や子育てで忙しい世代をどう取り込むかが鍵になると思われる。